

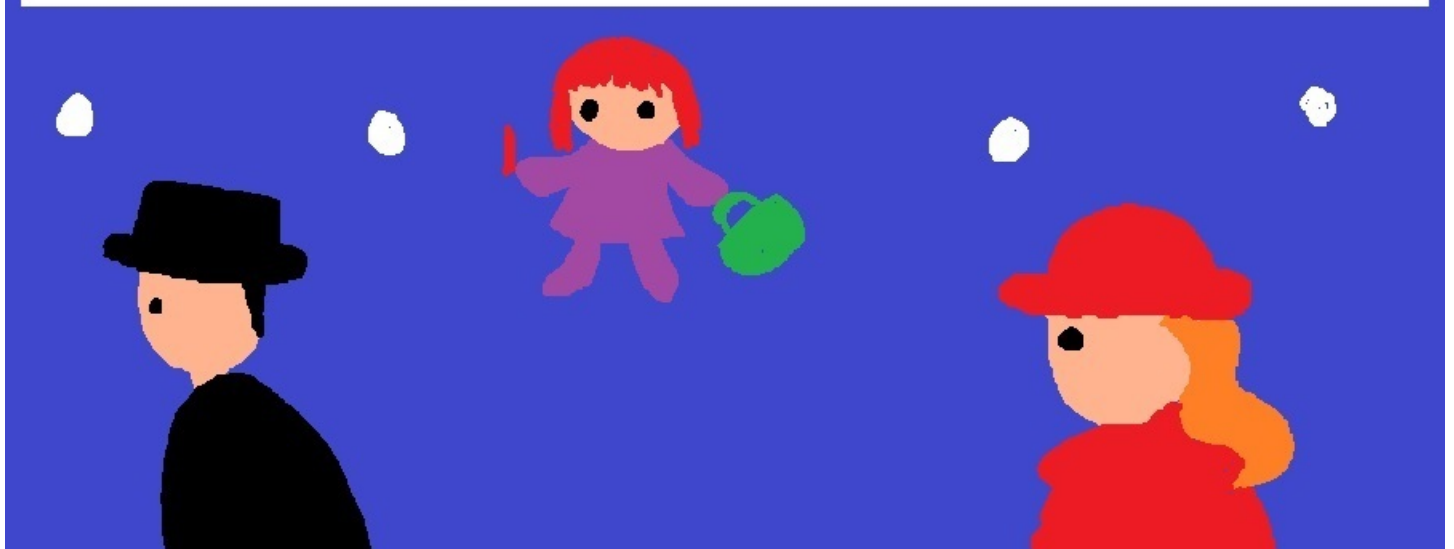
ざんげやく売りの少女



「座薬は要りませんか？座薬、買ってください」

今日は12月25日のクリスマス。雪の降る夜の街中で、つまりちゃんという女の子が座薬を売っています。しかし道行く人々は、誰一人見向きもしません。つまりちゃんは首を傾げます。

「おかしいなあ、クリスマスなのに座薬が売れない。皆、すっきりした気分でクリスマスを迎えたくないのかしら？」



「お兄さん、座薬買わない?!クリスマスくらいすっきりした気分で過ごしなよ!」
ちょうど通りかかった、帰宅途中であろう男性に、つまりちゃんは声をかけました。
「い、いや私はむしろ下痢気味なので。」
男性は困った顔でそう答えました。



「ちょっとそこのお姉さん、あなた詰まってるでしょ！詰まってそうな顔してるもん、辛そう。これから腸内洗浄行きますって顔してる！座薬の方が安いよ？！座薬買いなよ！」

寒さ故に俯き気味で歩く女性にも、つまりちゃんは声をかけました。

「違います！全然違いますから！」

女性はそう言うと、そそくさと去って行きました。



子供にも声をかけてみました。

「君、これ使ってすっきりしない？」

子供は不思議そうな顔をして言いました。

「それは何？」

つまりちゃんは親切に教えてあげます。

「これをお尻の穴に入れて、うんち出すんだよ。」



「マー君、行きますよ！」

子供の母親らしき女性が、手を引きそそくさと去って行きました。

「ママ、あれ何ー？」

マー君と呼ばれた子供がつまりちゃんの方を指して言いました。

「見ちゃいけません！」

母親はますます足を速めて、行ってしまいました。



「皆、すっきりしているんだなあ。便秘は私だけかあ。」

つまりちゃんは一人、ため息をつきました。そう、つまりちゃんはもう10か月うんちが出ていないのです！

この広い世の中、きっとつまりちゃんと同じように便秘で苦しむ人はいる事でしょう。しかし圧倒的少なさ故に、痛烈な孤独を感じるつまりちゃん。

「私も皆と同じように、すっきりしたい！でも、この座薬を何度使っても無駄だった・・・」

そんな、自分が試して駄目だった物を売ろうとするつまりちゃん。あまり良心的とは言えませんね・・・



「でも、今日はクリスマスだもの。奇跡が起きるかもしれない！」

つまりちゃんは売り物の座薬を取り出し、もう一度試してみることに決めました。

すぐそこにあった、公衆トイレへ入っていきます。



「この前より、出易くなってる気がする！気のせいかもしれないけど・・・」
座薬を試したつまりちゃんは、次に気張り始めます。と、そこに
「頑張れ！頑張れ！」「負けるな、きっと出る！」
という、男女の声が聞こえてきました。



つまりちゃんが声をかけた人達が、つまりちゃんの居る個室の前で応援していたのです。

「頑張れ！もうすこしょ！」「きっと出る！諦めるな！」「クリスマスをすっきり過ごしましょう！」「お姉ちゃん、頑張っ
て！」

皆の声援を受け、感動のあまり涙ぐんだつまりちゃん。改めて気を引き締め、全身に力を入れて気張ります。

そして・・・



「で・・・出たー！！」

というつまりちゃんの叫びと共に、歓声があがりました。

ジャー、という水を流す音の後間も無く、個室から清々しい満面の笑みを浮かべるつまりちゃんが出てくると、人々は拍手と歓声で迎えました。

「おめでとう！よく頑張ったね！」

つまりちゃんは涙を浮かべ、皆に感謝します。

「ありがとう、皆のおかげで頑張れたよ！」





「そう言えば・・・」

つまりちゃんは、ふと夜空を見上げました。

「今日はクリスマス。聖母マリアが10か月お腹にいた子供を出産した日。きっと今日の私みたいにして産んだのだろうなあ。私も10か月ぶりだもの・・・今日、私は聖母マリアの人生の一部を追体験したのだけわ。」

すると、横にいた赤い帽子の女性が言いました。

「ただし、飼葉桶に寝かせるのではなく、下水道に流したんだけどね！」

「やあねえ、当たり前じゃないの！」

つまりちゃんも、皆大笑い。

爽快な顔をしながら、それぞれ帰途についたのです。

